

平成 23 年度第 1 回 IODP 部会執行部会

日時:2011 年 5 月 20 日(金)15:30~18:30(15:30~17:00 はクローズドセッション)

場所:文部科学省 5F 2 会議室

出席者:

執行部:川幡穂高(部会長・東京大学大気海洋研究所) 西 弘嗣(部会長補佐・東北大学)
井上麻夕里(東京大学大気海洋研究所) 小林励司(鹿児島大学) 木村純一(JAMSTEC)
鈴木庸平(東京大学) 中西正男(千葉大学) 七山 太(産業技術総合研究所)
道林克禎(静岡大学) 村山雅史(高知大学海洋コア総合研究センター)
森田澄人(産業技術総合研究所) 横山祐典(東京大学大気海洋研究所)

オブザーバー:

CDEX:江口暢久

文部科学省海洋地球課:柴田晋吾、倉本真一、肥田慎司

事務局:菊田宏之、梅津慶太(CDEX)

欠席者:辻 健(京都大学) 中村恭之(JAMSTEC)

議事次第(案)

1. IODP の仕組みと J-DESC の役割【川幡部会長、事務局】..... 資料 1
2. 第 4 期からの引き継ぎ事項及び今後の方針【川幡部会長】..... 資料 2
3. 執行部役割分担【川幡部会長、事務局】..... 資料 3
4. IODP SAS の改組について【事務局】..... 資料 4、5
5. 成果公表助成について【川幡部会長、事務局】..... 資料 6、7
6. 「ちきゅう」の状況について【CDEX】
7. その他
 - ・その他報告事項など
 - ・次回執行部会開催日程確認

配布資料

資料 1 IODP の仕組みと J-DESC の役割	参考資料 1 IODP 部会規則
資料 2 2010 年度の取り組みと、次期への引継ぎ事項	参考資料 2 2011 年度 J-DESC 役員体制
資料 3 執行部役割分担	参考資料 3 2011 年度 J-DESC 収支予算
資料 4 新 SAS 組織	参考資料 4 J-DESC 技術開発系部会の今後のあり方に関する提言その 1
資料 5 新 SAS Terms of Reference	参考資料 5 J-DESC 技術開発系部会の今後のあり方に関する提言その 2
資料 6 成果公表助成について	
資料 7 成果公表助成申請一覧	

議事録(案)

始めに自己紹介がなされた。

1. IODP の仕組みと J-DESC の役割

川幡部会長より、資料 1 に基づき、J-DESC について説明がなされた。

- ・ 53 の組織が正会員となっており、10 万円の年会費を集めて運営している(そのほか賛助会員が 16 企業、個人会員が 13 名)。
- ・ 海洋掘削をサポートする IODP 部会と陸上掘削をサポートする陸上掘削部会から構成される。
- ・ IODP 部会に関わる人数は、専門部会、SAS 委員を含め 80~100 人規模。
- ・ 関係のあるお金として、J-DESC 独自資金と CDEX からの支援がある。
- ・ CDEX からの支援は専門部会、SAS 委員旅費、乗船関係旅費、研究推進費など。

2. 第 4 期からの引き継ぎ事項及び今後の方針

資料 2 に基づき、川幡部会長より説明がなされた。

- ・ 次期 IODP へ向けた執行部の取り組みとして、2013 年 10 月からの 2 年間の SIPCom 議長の選出、SAS の改組に伴う国内専門部会の再編などを行う必要がある。
- ・ 国際交流としては、日独若手研究者交流が機能していないため、何とか活性化すべき。
- ・ J-DESC 法人化については、総会において今期の執行部では本格的な検討は行わないことが議決されている。
- ・ アウトリーチとしては、コアスクールの国際化、プロポーザルをかける人材の育成を目的とするサイエンススクールの立ち上げ、新たな講師派遣制度の活用などがあげられる。
- ・ J-DESC 会長に執行部の活動を定期的に報告するのが良い。

3. 執行部役割分担

資料 3 に基づき役割分担が検討された。

- ・ 役割分担を明確にすることで、特定の執行部委員に負担が集中するのを防ぐ。
- ・ 決定した役割分担は以下の通り(敬称略)。

会計: 森田澄人

広報: 七山 太、辻 健

会員提案型活動経費: 村山雅史(審査委員長)、中西正男(審査委員)、中村恭之(審査委員)

成果公表助成: 道林克禎

航海乗船者リクルート: 横山祐典、木村純一

コアスクール: 村山雅史

JpGU: 井上麻夕里

プロポーザル支援: 鈴木庸平

専門部会

掘削航海: 横山祐典

掘削研究: 鈴木庸平

事前調査検討: 中西正男

環境保護安全: 森田澄人

科学計測: 中村恭之

技術開発推進: 中村恭之

4. IODP SAS の改組について

事務局より資料 4、5 に基づき標記の件について説明がなされた。

- これまで SSEP、SPC、SASEC という 3 段階のプロポーザル評価システムが PEP (Proposal Evaluation Panel)、SIPCom (Science Implementation & Policy Committee) の 2 段階に合理化される。
- サービスパネルは SSP→SCP (Site Characterization Panel)、EPSP→EPSP、STP→TP (Technology Panel) に引き継がれる。一方、EDP→廃止を含め SASEC のサブコミティーで検討中。それぞれの役割は改組前とほぼ同様だが、TP にはプロポーザルの Technological Feasibility をレビューする役割が加わる。
- プロポーザルは従来通り Pre-Proposal と Full-Proposal に分けられる。評価の流れとしては以下の通り
Pre-Proposal: PEP にて評価を行い、Full-Proposal に発展させる、または Deactivate のどちらか。
Full-Proposal: 初めて提出されたものについては、PEP にて、External Review に出すか、改訂するか、Deactivate のいずれかとなる。一度改訂されたものは External Review か Deactivate のどちらか。External Review に出る際にサービスパネルによるレビューも行われる。すべてのレビューの後、高評価を得、かつ掘削の準備が整ったプロポーザルは SIPCom および OTF に同時に送られ(事前調査のデータが不足しているなどの場合、Holding Bin と呼ばれるカテゴリに分類され、データが揃うまでスケジュールされない)、OTF にて航海スケジュール案が作成された後、SIPCom において最終的な承認がなされる。
- 大きなプロジェクトはワークショップを開催して作成していくことになる。ワークショップを通じて作成されたプロポーザルも通常の評価フローに乗せられる。
- ワークショップは IODP-MI が資金を出すもの(ある時期に募集が出る)、各 PMO が主催するもの、グループや個人で開催するものなど、さまざまある。

合意事項(110520-01): NanTroSEIZE と KAP と Rapid response のワークショップを国内で開催することを検討(要請)する。その支援のためのフレームワークを検討する。

合意事項(110520-02): PEP 委員の候補者について、基本的にプロポーネントは入れない。次回会議の際に実際に候補者を選出する。

5. 次回 SPC 会議(8/22-24)について

川幡部会長より、標記の件について説明がなされた。

- 次回 SPC 会議(これが最終回)を仙台で開催できないかどうか IODP-MI より打診があった。
- 仙台で開催することで実際の Geohazard を見るいい機会になること、Rapid response drilling を実施する際には勉強になることも重要。
- 余震や原発等の危険はあるため、いざとなった場合の準備は必要。
- 東北大 GCOE からも費用を出せる可能性もある。ただし、GCOE と共催のセッションなどを企画する必要がある。

合意事項(110520-03): 次回 SPC 会議を仙台にて開催する意向があることを IODP-MI に対して表明する。

6. 成果公表助成について

川幡部会長より資料 6、7 に基づき、説明がなされた。

- ・ 今期の活動の目標の一つに乗船研究による成果を上げてもらうことがあり、その一環として成果公表助成を効果的に利用し、成果を報告してもらうことを考えている。年間予算は 100 万円。
- ・ 成果公表助成は、IODP で取得された試料やデータに基づき執筆され、Web of Science に登録されている雑誌に掲載された(される見込みの)論文 1 本に対して、1 万円を J-DESC の会費から助成するという制度(乗船者の場合 1 万円、筆頭著者の場合 5,000 円をそれぞれ増額する)。
- ・ 今回、5/10 までおよそ 1 カ月間申請を受け付けたところ(今回で第 4 回)、11 名から 17 件の論文の申請があった。

合意事項(110520-04):申請のうち、11 名 16 論文の申請を認める。助成額の合計は 265,000 円。

7. 「ちきゅう」の状況について

江口氏より標記の件について説明がなされた。

- ・ 3 月 11 日の津波により、アジマススラスタ 1 基及び船体の一部を破損した。その後横浜港のドックにて船体の破損箇所を修理中。
- ・ スラスタは脱落したものを再利用できないため、1 から作ることになり、修理完了は年度いっぱいを見込んでいる。
- ・ IODP に関わっては、下北、Rapid Response、NanTroSEIZE Deep Riser のスケジュールが 6 月の OTF での検討事項となる。

8. その他

- ・ 次回執行部会開催日程確認

次回は 6/2(木) 15:30~JAMSTEC 東京事務所にて開催